

気象防災アドバイザーに教わる!

豪雨災害時に 身を守る行動と備え方



監修/太田 絢子さん
気象予報士・気象防災アドバイザー

実は年々、雨の降り方が激しくなっています

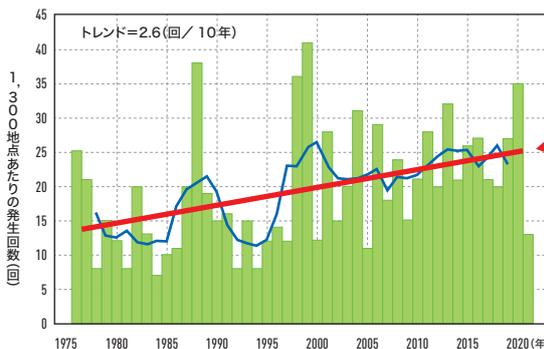
その一因は…

地球温暖化により気温が上昇

気温が高くなることで空気中に
含むことのできる水蒸気量が増加

1時間に80ミリ以上の「猛烈な雨」が
降る回数は増加傾向

全国の1時間降水量80ミリ以上の年間発生回数の経年変化



※青線は5年移動平均値、赤線は長期変化傾向(この期間の平均的な変化傾向)を示す。出典/気象庁ウェブサイト

これまで河川の氾濫や土砂災害が発生しなかった地域でも災害が起こる可能性があります

警報や注意報が出ているときに取るべき行動

- 大雨特別警報
- 氾濫発生情報

命の危険 直ちに安全確保!

- 土砂災害警戒情報
- 氾濫危険情報
- 高潮特別警報
- 高潮警報

危険な場所から全員避難

- 大雨情報(土砂災害)
- 洪水警報
- 氾濫警戒情報
- 高潮注意報

危険な場所から高齢者等は避難

- 氾濫注意情報
- 大雨注意報
- 洪水注意報
- 高潮注意報

自らの避難行動を確認

- 早期注意情報

災害への心構えを高める

危険度
大

ここまで
必ず避難

※令和4年6月末時点の法令等に基づき記載

参考/気象庁ウェブサイト

Point! 避難の判断に活用しよう!

土砂災害・浸水害・洪水害の危険度が色でわかる「**キキクル**」(危険度分布)を
平時に家族でチェックしよう

キキクルは
こちら!



出典/気象庁ウェブサイト

豪雨災害はどこで起きてもおかしくない

命と暮らしを守る3箇条



1 ハザードマップでお住まいの地域のリスクを確認する

- 「土砂災害」「洪水」「津波」などのリスクがあるかどうかを確認する
- 避難場所の適性を確認し、何があったらどこに逃げるか柔軟に考えておく
- 避難場所まで実際に歩き、所要時間やルートを確認しておく

ここからハザードマップをチェック



出典 / ハザードマップポータルサイト(国土交通省)

Point! リスクに対する備え方の例

<p>浸水害</p> <p>のう 水囊の作り方を覚えておく</p> <p>ゴミ袋を2重にして水を入れ、口をしっかりとめて段ボールに入れるだけ</p>	<p>土砂災害</p> <p>斜面の近くにお住まいの方は 寝室を斜面と反対側の 高い階の部屋に</p>	<p>農家の台風対策</p> <p>ほじょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 圃場付近の排水溝の清掃 ● ハウスの補強 ● 塩害防止のため すぐに散水できるように準備
---	--	--

2 深刻な被害を想定して適切に備えておく

- 家電をはじめほとんどの家財が
使えなくなることを想定する
- 大事なものは高い所に上げておく
- 共済や保険の内容が自身の認識と
合っているかを確認する

3 日頃から家族と話し合い、防災意識を高める

- 集合場所や集合できなかった場合の
連絡方法をできるだけ具体的に決める
- 災害用伝言板(web171)の体験サービスで
利用方法を覚えておく
- 首相官邸のウェブサイトを参考に
家族構成や持病などを踏まえて防災用品を揃える
- 被災時の注意点を話し合う
(川の様子を見に行かない、車で避難しない等)

check

保障内容を確認し、必要に応じて見直しを

被災者生活再建支援法での支援は、生活再建のための「必要最低限の公助」であり、ご自身の備えが重要になります。JAの建物更生共済に加入している方は、水害は保障対象となっていますが、「保障金額が充分か」「家財への保障があるか」といったことを改めて確認しておくようにしましょう。

一般的な火災保険に加入されている方は、水害が保障対象外になっていることもあるので、保障対象となる自然災害を確認し、必要に応じて保障の見直しをしてください。

いざというときにスムーズに住宅・生活を再建するためには、共済・保険に加入するなど「自助」による備えが重要です。



みなさまの安心安全な暮らしをサポートする活動です。一緒に身近な災害やリスクに備えましょう。専用ホームページでは、防災・減災等の役立ち情報なども掲載しています。是非ご覧ください!



災害に対するご家庭での備え
~これだけは準備しておこう!~
(首相官邸ウェブサイト)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/sonae.html>

